

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: http://www.konbukuroike.com

2022年3月

第95号

フクロウ保護の経緯と対応について

小川 幸夫



昨年11月20日(土)にこんぶくろ池公園で保護されたフクロウですが、いま現在も放鳥のためのリハビリ中ですが元気になっています。名前は“ごんちゃん”と呼ばれています。このフクロウの保護の経緯とそのなかで出てきた問題点やその後の対応についてご報告させていただきます。

11月20日(土) 13時

ワタラセツリフネソウエリアで動けなくなっているフクロウがいると来園者から報告されました(矢島さん、三好さんが対応)。

①警察と市役所に連絡。どちらも対応できないとのこと。脚輪もなくフクロウが野生のものか飼育個体か判断つかないため警察は遺失物として対応できなく、また市役所は死んだものしか対応できないという回答。

②鳥の博物館に問い合わせ(岡本さん、矢島さん、三好さん)。写真から在来種のフクロウと鑑定してもらおう。傷病鳥を診てくれる病院の存在と、保護をしてくれるボランティアの存在、さらにそれを紹介する東葛飾地域振興事務所地域環境保全課の存在と連絡先を聞く(連絡とれる月曜まで事務所隣の倉庫内で保護することにする)。



11月21日(日)

フクロウの怪我の状態がわからないため、取り急ぎ市川行徳の野鳥病院に連絡。鳥インフルエンザ警戒度が上がってる時期のために受け入れできないとの回答(小川)。

11月22日(月)

①県の環境保全課へ連絡(三好さん、小川)。鳥を保護するボランティアは鳥インフルエンザで紹介を停止しているという回答。傷病鳥を診てくれる動物病院を3ヶ所紹介してもらおう。フクロウを保護するか放鳥するかはNPO側の判断で決まるという指示。保護する場合は保全課へ報告する義務あり。

②紹介された動物病院3ヶ所のうち新柏の宮動物病院が受診してくれることになり昼前に受診。外傷なく痩せているという診断。

③午後に事務所前で放鳥の試み1回目。飛び立たず。

④夜に再度放鳥の試み2回目。人が見ていない時に歩行で移動するも飛び立たず。ここまでの経緯で外傷の見当たらないこのフクロウがなぜ飛べないのか?なぜそこにいたのか?という疑問から、野生のフ





クロウではなく飼育個体が捨てられたのではないかという疑念が膨らむ。こんぶくろ池公園でフクロウが保護された同じ週の16日（火）に、近くで同じようなフクロウが保護され翌日には放鳥されていたという情報が入る。第1発見者である来園者の方の言動も怪しかったのでさらにこのフクロウが人為的にこんぶくろ池公園に放鳥された疑念が深まる（結果的に野生のフクロウの可能性が高いことがわかりました）。

11月23日（火・祝）

フクロウの世話をするために引き取り（以下小川）。

11月24日（水）

保護飼育するために東葛飾地域振興事務所地域環境保全課へ問い合わせ。担当者の回答では鳥インフルエンザのため、たとえ怪我していようとも保護も飼育も認められないとのこと。

11月25日（木）

研究機関へ移送。研究機関のご好意で一時的な保護とリハビリ開始。レントゲンなどの検査の結果、骨折はしていませんでしたが左翼と左脚に麻痺があるとのことでした。また左翼と尾羽も抜けているため、おそらく車などに左側からぶつけられて動けない状態になっていたのだろうとのこと。エサも採るすべもなかったはずで体重も半分ほどで極度の衰弱状態でした。

2月7日時点では体重も増えて飛び上がったり羽ばたいていて換羽すればこんぶくろ池公園に放鳥できるのではないかと期待しています。今回のフクロウの件では以下の問題点から混乱しました。

- ①外見から野生のものなのか飼育個体なのかわからなかったこと。
- ②怪我も確認できないため飛べるか飛べないのかもわからなかったこと。
- ③鳥インフルエンザの警戒レベルが上がった時期なのでどこも対応してくれなかったこと。行政も鳥インフルエンザ期間の対応はまともにできず、傷病鳥は鳥インフルエンザでなくても保護せず放鳥するようという一点張りの指導でした。今回のフクロウは推測にはなりますが、こんぶくろ池公園から少し離れた地域で車にぶつかり、たまたま保護した人が県の指導のもとこんぶくろ池公園に連れてきて放鳥。それをNPOで再度保護というなんともおかしい保護だった可能性が高いのです。今回たまたま研究機関で一時的に保護してくれましたが、県の指導のもと再びこんぶくろ池公園に飛べないこのフクロウを放したとしましょう。もちろんまた来園者の誰かが拾って、また放しての繰り返し。フクロウが弱って死ぬまでその同じ行為の繰り返しになっていたはずなのです。そうならないために行政には鳥インフルエンザ期間の対応取り決めの変更と、保護する側も鳥を助ける方法として法的な違反のないような良いアイデアを思いつくことが必要だと思うのでした。春には元気なごんちゃんの放鳥をが見られることを期待したいと思います。

ズミプロジェクト報告

ズミプロジェクト有志
(文責：山上)

ズミプロジェクトの経過につきまして、その概略を次のとおりご報告いたします。

まず、保全については、成木にからまった蔓の除去や成木周辺の下刈りを逐次実施しています。また、成木の開花・結実状況については、橋本谷さんが毎年詳細に調査してくださっています。

次に、再生については、次のとおりです。

(1) 実生

- ① ズミの実の果肉を除去した種は、黒くて固い米粒大であれば、用土を選ばず、発芽率は高い。
- ② 播種のタイミングについては、三月上旬までに播種すれば、冬播きと春播きの成長差は夏までになくなるので、春播きの方が有利と考えられる。
- ③ 本葉が出て主枝がしっかりしてきたら1本立ちにし、その後、適宜植替えをすれば、苗は大きく育つ。

(2) 実生苗の植栽

- ① 2020年2月、地下水位と日照条件等を考慮して選定したエリアに11本の試験植栽を行い、うち1本が地下水位の低い不適地のため枯死し、3本切断被害に遭うが、その他の経過は概ね良好だった。
- ② そこで、2020年12月に4本の補植と、1本の本植栽を行い、2021年3月に52本の本植栽を7つエリア（一号近隣公園を除く）に行った。植栽時には極力、判明している遺伝子型が異なる株を混在させるように配慮した。
- ③ その後、こんぶくろ池東エリアの2本が10月の山桜の老木伐採時に下敷きとなり、また、2021年2月5日時点でさらに16本の切断被害が確認されている。また、苗保管場所でも数本切断されていた。

(3) 生育状況

- ① 生育状況はエリアによって顕著に差があり、良好なエリアは、ツリフネソウ、弁天池南、弁天川西（橋下流）といった年間を通して日当りの良いエリアで、こんぶくろ池東、地金堀南岸、弁天川西（橋上流）、掩体壕付近といった落葉期以外の開空度が低くなるエリアの生育は遅い。

- ② 同じエリア内で同年実生苗を比較すると、苗をしっかりと育ててから植栽した株（株元の太い苗）の方が、早く植栽した苗よりも、植栽地でのその後の成長が良い。
- ③ ツリフネソウエリアの北側では繁茂する下草と競争して徒長枝が目立つ。
- ④ 2013年に中庭さんが播種され、2020年に植栽した苗（写真）にも、今のところ開花は見られない。
- ⑤ 成長の遅い苗はあるが、これまでのところ植栽場所不適の1本以外に自然枯死はない。

したがって、これまでに分かってきたこととして、実生苗については、少数の苗を十分に成長させた後、現地に植栽してフォローする方法が、ズミ再生のための効率的な手順と考えられます。

また、植栽地については、園内の、渇水期の地下水位が概ね地表面下四十センチより高く、年間を通じて開空度が概ね二十%以上の場所が、ズミ再生のための植栽適地と考えられます。

切断については、ノウサギはリンゴの新芽を好んで食べるそうであり、ある程度大きく成長したズミ株は切断されておらず、また、ズミ以外の幼木にも一部同様の切断痕が見られるなど、ノウサギの食害の可能性が高いと思われます。



以上のとおり、これまでのところ、植栽苗の生育状況は概ね良好なので、計画を繰り上げて本年3月中旬に、残りの園内保管苗と会員自宅で育成中の苗を、上記の既存エリアでの補植と、新規エリアとして地金堀北岸を中心に植栽する予定です。

植栽本数については、上記のとおり、すでに切断されて成長が止まっている株もかなりあり、年数を経るうちに減っていき、追加植栽しない限り増えることはありませんので、多過ぎるということはないと考えています。

現在もご自宅で苗を育てていただける方で、今後も継続して自宅育成可能な方は継続をお願いします。それ以外の方は本年3月中旬の植栽実施前に苗をお持ちいただきますようお願いいたします。

写真（苗番号1、2013年播種、株元直径3.5cm）2022.2.5撮影

平成四年冬季こんぶくろ池句会・歌会作品集

世話人 松田 和生

俳句の部

| | |
|--------------------|------|
| 満月がおかえりなさいと笑ってる | かわせみ |
| アカガエル朱くなるほど春近し | かわせみ |
| カエル池私を見ているオスガエル | かわせみ |
| 昇る陽に 平安祈る 手を合わせ | 中川望 |
| 猫番となりて知足の年新た | 吉清 |
| 猫抱きて雪見の先に松飾り | 吉清 |
| 雪達磨抱えて道草子らの笑み | 吉清 |
| 早や庭に神はマジシャン春の花 | 吉清 |
| 初場所の御嶽見ずして友は逝く | 昇多 |
| あおぞらに向かうリフトと白いゲレンデ | 秀夫 |
| オオタカの巣作り願ひ柵づくり | やま男 |
| 湧水の池に満ちたり初明かり | わらしべ |

短歌の部

| | |
|-------------------------------------|--------|
| 成人の孫との写真に赤シャツの 喜寿の爺さん笑顔で写る | 権兵衛 |
| 天国の愛犬たちに年賀状 今年も夢で逢いましょう | 中川望 |
| 青空の下（もと）光り輝く蠟梅の 花と香りに古（いにしえ）偲ぶ | 中川望 |
| コロナ禍でハンドシェイクは過去のもの ハグした日々も過去の夢かな | ノー・ボール |
| トンネルを越えた向こうは銀世界 乗客達が浮き足立って | 秀夫 |
| 残雪を物ともせず木道を 凍てつく川辺に切り開きゆく | わらしべ |

あとがき

ロシアのウクライナ侵攻で世界が衝撃を受け、コロナ禍で日本が揺れる中、こんぶくろ池自然の森には平和で豊かな自然環境が保たれていることに幸せを感じます。

今回は、延べ9名の方から俳句十二句、短歌六首の、思わずクスッとさせたり、なるほどと頷くような素敵な作品が寄せられました。

俳句・短歌というと何となく堅苦しく思われる方が多いようですが、実は普段の話し言葉の基本が七五調で、会話を切り取って配置を考えてみれば五七五の俳句、五七五七七の短歌になることに気づきます。作句・作歌の向上を目指しつつ、実は頭を使うことで老化防止にもなるのです。

自然の森を愛する同胞の皆さんでまだ参加されていない方は、ここで思い切って俳句・短歌の世界へ一歩踏み出しませんか。きっと新たな世界が開かれることでしょう。

今回は春季（3月～5月）になりますが、思い立ったが吉日、事務所前の投稿箱の他、世話人宛のメールでも結構ですので応募して下さい。お待ちしております。

2月理事会

（日時）2022年2月26日（土）13:00～16:00

（出席者）岡本、上田、中川、藤原、萩原

1. 審議検討・確認事項

（1）（3月開催）「里山の保全活動体験会」の準備状況について

- ・ 2/24時点での申込状況の報告が行われた。

（2）来年度のT-KIDS及び柏の葉T-SITEとのイベントの準備状況について

- ・ T-KIDS及び柏の葉T-SITE側よりの回答の報告が行われた。
- ・ 4/10（日）春の自然観察会の時間、対象、定員、受講料を決定した。

（3）（5月開催）UDCK昆虫座学&標本展示の準備状況について

- ・ 2/21実施のUDCKとの打合せ結果の報告が行われた。
- ・ 5/20（金）～22（日）標本展示 5/22（日）座学
- ・ 実施要領は広報対応の一部の検討事項を残し、確定した。

（4）定款の一部改正について

- ・ 最終案の確認が完了し、確定した。

（5）今年度予算の執行状況について

- ・ 2月末までの執行状況の報告が行われた。
- ・ 来年度の予算案作成に向け、3/20頃までに各イベント予算を作成する。

（6）年度末業務遂行計画及び第13回通常総会準備について

- ・ 柏市への報告書作成の担当者及びスケジュールを確認した。
- ・ 第13回通常総会準備スケジュールを確認した。

（7）こんぶくろ池の水位維持等について

- ・ 2/15に当園で実施した「東京大学 柏キャンパス サイエンスキャンプ」の集中講義の一環としての“水環境の現状確認”学習の結果報告が行われた。

（8）ズミプロジェクト経過報告とズミ切断について

- ・ ズミ切断についてのアドバイザーの先生方の「ノウサギの仕業の可能性大」というご意見を踏まえ、今後は侵入防止のための柵設置を検討することとした。

(9) こんぶくろ池 Info.での受信メール対応について

- ・ 理事間で情報連携し、メールの受信漏れを防止する運用を行うこととした。

(10) 3～4月活動計画

- ・ 情報を共有化した。

2. 報告事項

(1) 園内ガイド

- ① 東大 柏の葉サイエンスキャンプ協力 (2/15 (火) 13:40～15:10 17名)

- ・ 教養課程学生8名+教員他9名に“水からみるこんぶくろ池”の説明とガイドを実施

(2) その他

- ① カシニワ・景観の啓発動画撮影 (2/12 柏市住環境再生課)
- ② ナラ枯れ伐採等対応 (2/5&7～15 柏市公園緑地課：染谷造園(株))
- ③ 一号近隣公園秋水燃料庫2号基の掘り出し (2/14&15 柏市公園緑地課)
- ④ 一号近隣公園秋水燃料庫2号基の計測及び園内構造物調査 (2/21 9:00～13:00 柏市文化課)
- ⑤ アジア航測による水量・水質調査 (2/10、2/19AM)

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。

新入会員紹介

宮澤 信広さん



樹木への関心から数年前にカシニワ・バスツアーで「こんぶくろ池」など各団体の活動を見学させてもらい、今ならまだ体力的にも活動に参加できると思い、希望いたしました。

趣味・好きなこと：野菜づくり

貢献できそうなこと：会計・園芸

取り組んでみたいこと：少しでもお手伝いできればと思っています。刈払機、チェーンソーなど機材の操作取得。